令和３年８月23日

瀬戸内市議会議長

瀬戸内市議会議員　厚東　晃央

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和３年７月31日、８月１日
研修会名	第53回全国保育団体合同研究集会 in 広島
開催場所	広島県立総合体育館・オンライン
研修目的・内容	第53回全国保育団体合同研究集会 in 広島 ７月31日 保育・子育てフォーラム　コロナ禍で考える保育と私たちの未来 「いま、私たちの身近で何が起きているか」 中西新太郎（元関東学院大学） ・コロナ化が浮き彫りにした子育て・保育のすがた ・パンデミックが収まれば、今までの社会に戻るのか ・子育て世帯がきびしい生活になっている現状 仕事がなくなり、生活が苦しい子育て世帯が増えている 子育てする環境が壊される ・保育の現場も壊される現状 人手不足、待遇も低いまま 感染対策を取りながらの保育で疲弊 ・改めてわかる保育の力と役割 子どもたちの成長を支えてきた保育現場の力 感染を防げればそれでいいではすまない ・コロナ禍「弱者」を傷つけやすく、格差を生みやすくなる現状の社会の仕組みを変えていくことが必要

瀬戸内市議会事務局
受
3. 8. 24
付
92

→大人も子どもも安心して暮らせる社会に変える

「当たり前を問い直したら、新しい保育が見えてきた」

長瀬美子（大阪大谷大学）

・コロナ禍が浮き彫りにした子育て・保育のすがた

①私たちの身近で何が起きているのか

コロナ禍は暮らしも仕事も一変

子育てに展望が持ちにくい

コロナ禍で明らかにした保育現場の異常

②「子どもにとって」を考え続け作り出したコロナ禍での保育

③人が育つうえで大切なことをじっくり考えよう

④つながることの意味、新しいつながり方

「人が育つうえで大事なことをじっくり考えよう」

大宮勇雄（福島大学名誉教授）

・保育は共感あふれる和やかな育ちの場

・育ちは共同的で継続的なもの

・「共同的な語らい」は絶対条件

・規制緩和を許さない

他、「行事をどうするの」「子どもを真ん中に一緒に子育てしよう」「コロナ禍の保護者の思い」など全国の保護者・保育者からリモートにて報告

8月1日

特別講座「保育施設での重大事故から子どもの命と安全を考える」

平沼博将（大阪電気通信大学）

寺町東子（弁護士）

①保育施設での重大事故をなくすために

福岡県　保育園送迎バス内死亡事故→あってはならない

1，保育事故の現状と課題

・2004年から2020　年の17年間で218人亡くなっている

・認可外施設の発生率は認可施設の26.7倍になっている

・事故防止のガイドラインが内閣府から発表されている

・自治体・保育施設も保育事故防止の取り組み・チェックをすることが必要

2，睡眠中・食事中・プール活動・水遊び中の安全管理

・うつぶせ寝の危険性の認識と午睡時の呼吸チェックは必要

・午睡時の部屋の明るさや寝具のチェックも必要

・食事中の誤嚥による窒息事故の防止・安全確認
・プール・水遊びは必ず監視専門の職員を配置することが大事
3，子どもたちの命を守るために私たちにできること、すべきこと
・保育者は子どもの命を守り、発達を保証する専門家である
・「今まで事故が起きてないから大丈夫」は一番危険
・常に「いつ起きても」と危機感を持ち、見直しが必要
・ほかの園の方に見てもらうことも有益になる
・保育中の重大事故を無くすために財政支援が必要
②重大事故を防ぐ園づくり
1，重大事故の原因も防止策のひとつではない
・命が守られることが最優先。死んだらおしまい
・保護者からの見栄えを中心に考えない
2，午睡中の死亡事故を考える
・呼吸確認をすることが大事
3，おやつの誤嚥事故から考える
・急いで食べさせないことが大事
・食べる途中で驚かせないことが大事
4，プール事故から考える
・監視係を必ず配置する
シンポジウム「保育施設での重大事故から保育の基準を問い直す」
1，山口市認可保育園で起きた「死亡事故」の報告
2，大阪市認可外保育施設「入所初日死亡事故」の報告
3，安全で豊かな保育のために基準の統一と改善を報告
事件の共通性
①管理運営者の職員への安全教育の欠如
②保育の基本「子どもの命を預かる」意識の欠如
③命を守れなかったのに謝罪がない
④救急車への連絡が遅い　救急救命の訓練を
記念講演「紛争地、被災地の声から平和を考える」
安田菜津紀（フォトジャーナリスト）
写真を通して「こういう問題が起きている」ということを伝えていくのが仕事
中東地域の現状や東日本大震災後の現状の報告

所感	コロナ禍における保育の継続性が大切であり、困難を抱えた状況が報告された。制度上の問題としている「保育士配置」「低賃金」などが明らかになり、行政支援の重要性を感じた。また、コロナ禍における保護者の生活も苦しくなっている報告もされた。コロナ禍における特別な具体的な支援が必要だと感じた。 保育施設の重大事故はどこでも起きうる出来事である。事故が起きないためにいろいろな対策をとることが必要であることが報告された。「保育所保育指針」や「ガイドライン」をしっかり見直し、指針やガイドラインに基づいた保育を行うために財政支援を行うことが必要と感じた。 シンポジウムでは、子どもを事故で亡くされた保護者の方が発言をされた。訴えた側の事故の立証など困難な状態が続く理不尽さを感じた。どの保育園・施設でも起こりうる可能性があるので、保育所保育指針や総務省が出しているガイドラインなどを行政としても保育園・施設に対して徹底を求めることが必要だと感じた。 命を守ることが大前提であることで成り立つ保育園・こども園・幼稚園・子どもを預かる施設や制度を再度、総点検が必要であり、議会や委員会でも議論など行い、具体策を提案していきたい。 記念講演では、平和が当たり前ではない生活を写真を使って、報告され、事実を知るということで平和の大切さを再認識できた。